

地域内交通の手引「みんなでつくる 地域の交通」について

1 はじめに

岡崎市地域公共交通計画の基本目標のひとつである「地域のニーズにあった地域主体の交通」を実現するため、地域の移動ニーズに対応した交通体系を構築し、多様な移動手段を地域が選択する取組を後押しするための手引を作成したため報告する。

2 手引の内容

資料 3 - 2（概要版）、3 - 3（本編）を参照

3 令和 5 年度第 5 回交通政策会議の意見の対応状況について

意見	➤ 実際に進める上では、細かいところで各取組における差異等が出てくるはずなので、あまり内容を固めすぎず、取組を進めながら調整していく形で良いと思う。 ➤ 手引に大枠だけ示しておいて、柔軟に対応できるガイドラインを別に設けるという点も考えられる。そのガイドラインをケースに応じて作り上げていくという方式でも良い。
対応	➤ 当初は「乗合率」のみを基準として設定していたが、定路線運行は「乗車数」、「収支率」を基準として設定。また、区域運行は「乗合率」、「稼働率」、「収支率」を基準として設定し、複数の基準で評価ができるように可能。（概要版、本編 P. 17） ➤ また、数値基準に加え、「市民一人当たりの負担額」や地域の公共交通の状況なども考慮することとし、柔軟な対応ができる基準とした。（概要版、本編 P. 17）

意見	➤ その地域に合った交通手段を選択できるような仕組みにすると良い。
対応	➤ 先進地の事例紹介のほか、地域にあった交通手段の検討プロセスを追記。（本編 P. 10～13）

意見	➤ 運行事業者も合わせて活動していくということだが、現時点だとステップ 3 からの記載となっている。もっと早い段階で参画できれば、より良いものになると考えられる。
対応	➤ ステップ 1 から取組に関する支援などで参画できるように変更。（概要版、本編 P. 5～6）

意見	➤ 既存交通との乗継等の条件に対する理解が進んでいない。手引において折合をつけられるようにしておくと思う。
対応	➤ 地域内交通が既存の公共交通を補完するものであり、他の公共交通と競合しないことが前提であることを追記。（概要版、本編 P. 2）

4 今後の予定

地域の移動手段の確保については「公共交通」に加え、地域力を発揮した町内会による「共助交通」の取組も始まっていることから、これらの内容も踏まえた手引として、年度中にも更新を図っていく予定である。